山口赤十字病院
JAPANESE RED CROSS YAMAGUCHI HOSPITAL

地域の先生と山口赤十字病院をつなぐ
やまクロcross

第41号
2022.3・4

難聴治療について

【今回の担当医師】

耳鼻咽喉科　部長

安井　徹郎（やすい　てつろう）

【専　門】
耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般、耳科学

【資　格】日本耳鼻咽喉科学会専門医、
補聴器装用判定医

難聴について

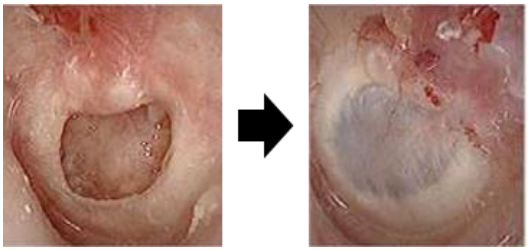
2020年のWHO（世界保健機関）の統計報告では、全世界に難聴者は4億7000万人と言われており、全人口の6%に相当しています。世界で最も高齢化が進んでいる日本では、2018年に65歳人口が総人口の28.1%を占め、この割合は2065年には約40%に達すると予想されています。

難聴は必然的にコミュニケーション障害を引き起こすことから、認知的機能の低下と関連する（いわゆる“ぼけ”が進行しやすい）ことがわかっています。さらに社会的孤立、うつ病、身体的機能の低下と関連することから、健康な生活時間を伸ばすためにも、難聴への治療は早めはやめに開始することが望ましいです。

伝音難聴について

耳垢や鼓膜穿孔、中耳炎、耳小骨（音を伝える骨）のトラブルなどにより、音の神経より手前で音が伝わらない病状です。当院では耳鼻科外来での耳処置から、手術室での耳手術まで対応しています。

近年では鼓膜穿孔に対して、日帰りの外来処置で対応できる鼓膜穿孔閉鎖処置や鼓膜再生治療（リティンパ）も導入しており、より患者さんの負担の少ない治療を提供できる環境を整備しています。また、入院手術も経過良好であれば最短2泊3日程度となっています。

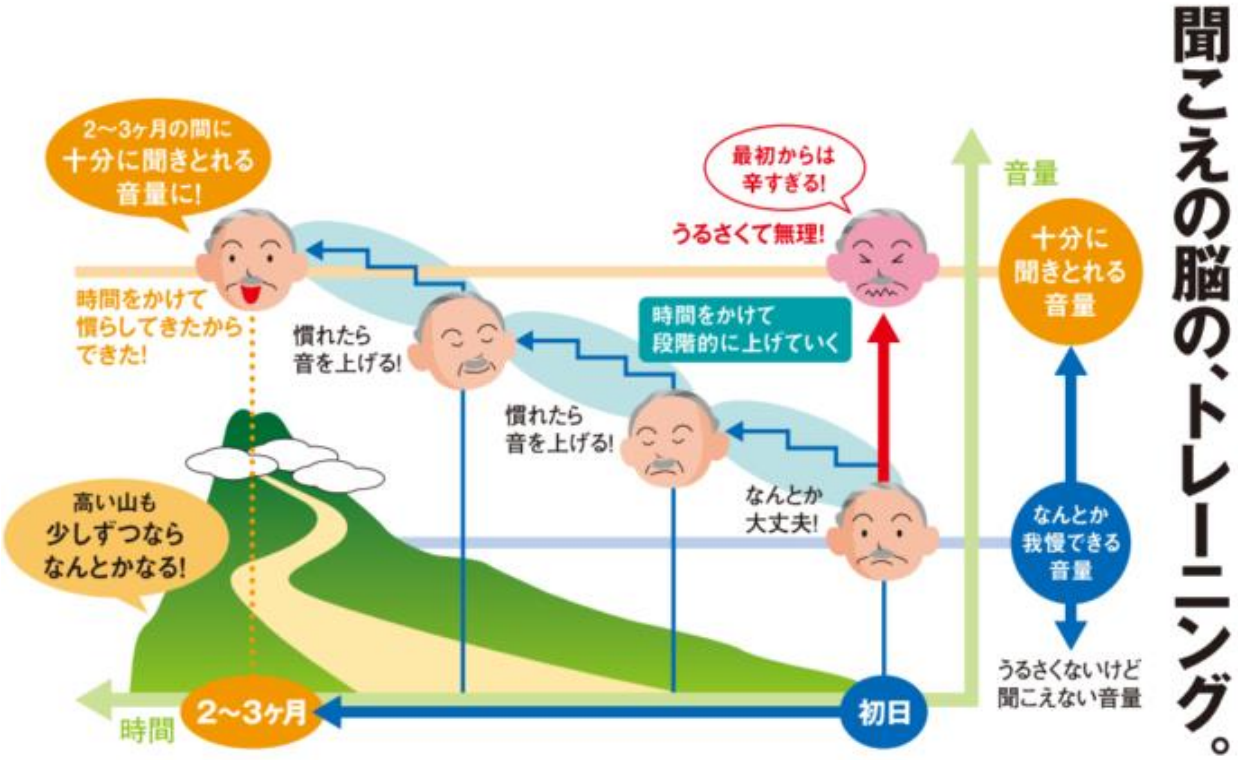


（リティンパ治療例；北野病院報告より引用）

感音難聴、混合性難聴について

耳のより奥深く、音の神経までトラブルが及ぶと、感音難聴と呼ばれる病状になります。また、伝音難聴と感音難聴を併発すると混合性難聴と呼称されます。人間を含む哺乳類では加齢により感音難聴が進行することが分かっており、後期高齢者のかたは皆さん注意が必要です。2022年時点では、失われた神経を再生させるような再生治療はできておらず、補聴器などのデバイスを用いる必要があります。

当院では補聴器適合判定医の指導のもと、近隣の補聴器店とも協力して適切な補聴器装用をご案内させていただいています。補聴器は患者さんごとに音量や増幅率、周波数特性といったセッティングが異なります。きちんと特性のだせた補聴器を、お風呂にはいる時間以外は起きてから寝るまで、できれば両方の耳に装着できていることが目標です。この状態に至るには、1～3ヶ月程度は“補聴器をつけるリハビリ”が必要です。



（補聴器リハビリのイメージ；　ゼロから始める補聴器診療より引用）

山口赤十字病院耳鼻咽喉科について

現在、常勤医3名（2名が耳鼻咽喉科専門医）、非常勤医1名で診療をおこなっております。耳科学以外にも、耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般についても検査、保存的治療、手術治療を行っております。また、より高度の治療については近隣総合病院・大学病院とも連携のうえ対応させていただいています。みみ、はな、のどの症状でお困りの患者さんがおられましたら、ぜひ当院までご相談ください。今後ともどうぞよろしくお願いします。

医師人事異動のお知らせ

《 採　用 》

耳鼻咽喉科　医　師　宮﨑　真優（3月1日付）

《 退　職 》

耳鼻咽喉科　医　師　糸山　晋作（ 2月28日付）

【発行元】 綜合病院　山口赤十字病院　地域医療連携室・総務企画課　〒753-8519 山口市八幡馬場53-1
Tel　083-923-0390 Fax　083-923-0391
http://www.yamaguchi-redcross.jp/

山口赤十字病院
おかげさまで100周年